終了２

調査研究終了（中間）報告書

研究分野：保健

調　査　研　究　名	福岡県における感染性胃腸炎原因ウイルスの実態解明に関する研究
研究者名（所属） ※ ○印：研究代表者	○石橋哲也、吉冨秀亮、前田詠里子、田上四郎、世良暢之、千々和勝己（ウイルス課）
本庁関係部・課	保健医療介護部 保健衛生課
調査研究期間	平成　22年度　－　23年度　（2年間）
調査研究種目	１．□行政研究　■課題研究 □共同研究（共同機関名：　　） □受託研究（委託機関名：　　） ２．■基礎研究　□応用研究　□開発研究 ３．□重点研究　□推奨研究　□ＩＳＯ推進研究
ふくおか新世紀計画 第3次実施計画	柱：安全で安心して暮らせる生活の確保 大項目：安全で安心して暮らせる生活の確保 小項目：災害など危機に強い県づくり
福岡県環境総合基本計画 （P20,21）※環境関係のみ	柱　： テーマ：
キ　ー　ワ　ー　ド	①感染性胃腸炎　②ヒトパレコウイルス　③A群ロタウイルス　④遺伝子型別

研　究　の　概　要

１）調査研究の目的及び必要性

感染性胃腸炎の原因ウイルスの中では、ノロウイルスが最も検出頻度が高く、実態についてもかなり解明されてきている。しかし、感染性胃腸炎の原因ウイルスとしては、他にもロタウイルスが古くから知られ、また、近年サポ、アストロ、アイチ、パレコ、ボカウイルスなどの新たに発見されたウイルスが知られてきた。そこで、県内のノロウイルス以外の原因ウイルスの感染状況を調査するとともに、各ウイルスの遺伝子解析を行い実態解明する。

２）調査研究の概要

感染症発生動向調査事業で搬入される感染性胃腸炎検体のうち、ノロウイルスが検出されなかった検体について原因ウイルスを特定する。また、検出されたウイルス遺伝子の型別を行い、福岡県内で流行しているウイルスの発生動向を把握する。

３）調査研究の達成度及び得られた成果

感染症発生動向調査事業で搬入された感染性胃腸炎検体の陽性率を約50%から約70%へ改善することができた。

４）県民の健康の保持又は環境の保全への貢献

従来、原因不明となっていた感染性胃腸炎の原因の一部が特定できた。この結果を医療機関へ還元することで、正確な診断につながることが期待される。

５）調査研究結果の独創性，新規性

今回の我々の調査で、福岡県内におけるヒトパレコウイルスについても県内流行状況の一部が明らかとなった。また、A群ロタウイルスの遺伝子型別による詳細な流行状況が始めて明らかになった。

６）成果の活用状況（技術移転・活用の可能性）

感染症発生動向調査事業で搬入される感染性胃腸炎検体の検査に取り入れて行っている。

ロタウイルスワクチン普及後のA群ロタウイルスの県内流行状況の変化を知るための基礎的なデータとして活用できる。